

電子メールを活用した遠隔地「岩手県」との交流学習

鹿児島県鹿児島市立武岡中学校

かみしらいし おさむ
上白石 修

【実践の内容】

地理的分野における日本の地域学習で、調査対象の地域への認識が低い遠隔地（今回は岩手県）を対象とした授業において、子どもたちが意欲的にその地域について学ぼうとし、かつ、その地域の人とのつながりを通じた学習を進められるように、電子メールを活用した交流学習を行った。また、生徒個々の取り組みを充実させるために教室内の無線LANの効果的な活用についても実践的に検証した。

【論文内容の紹介】

1 webコンテンツの調査と収集

1年生という発達段階を考え、事前に学習コンテンツを教師側で調査し、必要な情報を生徒に提供することから始めた。その上で、岩手県内の人口5000人以下の町村を選択し、その地域のリサーチした後、キャッチフレーズを作る取り組みを行った。コンテンツは各町村役場や観光協会のHPを対象とした。

2 教室への無線LANの導入

実践では、計6台のノートパソコンを無線LANでインターネットと接続できる環境を整えた。パソコン室の環境は一般にグループ学習には向かない傾向がある。本実践では、グループでの協議をベースに各個人で学習および作業を行うため、このような環境を整えた。検索等による情報収集から電子メールの受発信を各グループで行うことで、使い慣れた教室が新しい学びの場になった。また、協議中に随時検索を行えることも生徒の学習活動を活性化させた。

3 指導計画の作成と授業の実践

本実践の基本的な構成は以下の通りである。

- a 教師による基本的なデータの提示。
 - b 統計資料を活用した岩手県の現状の把握。（特に、人口問題を中心に）
 - c 人口5000人以下の町村を選定。
 - d 町村に関するwebページでの情報検索。
 - e 協力者との電子メールでの交流学習。
 - f 調査・交流を元にキャッチフレーズの作成。
 - g キャッチフレーズの学級内での評価及び調査対象の町村への送信。
 - h 町村からの返事を受けての学習のまとめ
- 調査対象の町村には、教師からの事前連絡の後、生徒がメールでの交渉を行った。

4 電子メールでの円滑な交流のために

電子メールの基本的な使い方にとどまらず、光と陰の部分についても本単元の中で学習し、相手が人間であることを改めて認識させながら学習を行った。

5 学習成果を「社会化」につなげるために

本実践の学習成果であるキャッチフレーズは、比較的短時間で作成できるというメリットがある。また、実際にこれを町村の役場で活用できるという可能性を持っている。実際に、本実践では、現町長との交流が実現した。また前年度の作品は、ある市のキャッチコピーとして採用された。学習活動の成果が実社会の中で活かされることは、生徒にとって大きな自信につながるものである。

【成果と課題】

相手を特定した交流が、これまで興味を持てなかった地域を一気に身近な地域に引き寄せてくれた。それもキャッチフレーズという短文づくりをその地域の住民と一緒に取り組むことで、人と人のつながりを実感できたことが功を奏したといえる。

今後は、TV会議システム等を活用し同期の交流をすることで、さらに生徒の学びの質を高めていこうと考えている。